

## 研究主題

# 東京都公立幼稚園 5 歳児の運動能力に関する調査研究

( その 9 )

### 抄 録

東京都では幼児教育を進める上で、幼児の運動能力の実態をとらえることが重要であると考え、昭和 55 年度から 3 年ごとに東京都公立幼稚園に在籍する 5 歳児を対象に運動能力調査を行ってきた。第 9 回にあたる今回は、前回までと同様、(1)25m 走 (2)立ち幅跳び (3)ソフトボール投げ (4)体支持持続時間 (5)両足連続跳び越し の 5 種目について運動能力調査を行い、過去 8 回の調査結果との比較、分析を行った。あわせて教員を対象にアンケート調査を行い、幼児の運動遊びに関する傾向を分析した。

調査の結果、次のことが分かった。

- ・ 幼児の運動能力について、前回の調査では「低下傾向」が指摘されていたが、3 年前と今回の結果の比較では、顕著な低下は見られなかった。
- ・ 「25m 走」「立ち幅跳び」については、男児・女児ともに前回より上昇した。
- ・ 「ソフトボール投げ」については、前回調査と比べてほとんど変化がないが、調査開始時点（昭和 55 年度）と比べると男児で 1.4m 減、女児で 0.5m 減と低下している。
- ・ 「体支持持続時間」については、男児は今回が最低値となった。女児は若干の上昇が見られたが、調査開始時点から比べた場合の長期的な比較では、指数変化で男女とも約 60 に低下している。
- ・ 5 歳 6 ヶ月～5 歳 11 ヶ月の幼児と 6 歳 0 ヶ月～6 歳 5 ヶ月の幼児との年齢区分による比較では、種目によって差異はあるが、基本的に年齢の上昇に伴い記録が伸びている。
- ・ 幼児の運動能力を育てるために計画や工夫、配慮など保育内容及び施設や設備などで工夫をしている園が多くある。

こうした点を踏まえて、今後、幼児の運動能力を育てるためには、各園が一層計画的に運動遊びを取り入れるとともに、園児の実態をとらえ多様な動きのある遊びを取り入れる指導が必要であるといえる。

## 目 次

|                            |     |
|----------------------------|-----|
| 調査研究の概要                    | 153 |
| 調査結果について                   | 154 |
| 調査結果の分析                    |     |
| 1 種目別調査結果                  | 156 |
| (1) 25m 走                  | 156 |
| (2) 立ち幅跳び                  | 158 |
| (3) ソフトボール投げ               | 160 |
| (4) 体支持持続時間                | 162 |
| (5) 両足連続跳び越し               | 164 |
| 2 運動遊びに関するアンケート調査（教員対象）の結果 | 166 |
| 調査結果のまとめ                   | 167 |
| 資料編                        | 169 |
| 資料 1 運動能力測定の方法             |     |
| 資料 2 種目別調査結果の推移            |     |
| 調査協力園一覧                    |     |

## 調査研究の概要

### はじめに

昭和 50 年代前半、都市化等の影響から、運動機能の発達が十分でなかったり、体を使った遊びに意欲的に取り組めなかったりする幼児の増加が問題視されるようになった。東京都では幼児教育を進める上で、幼児の運動能力の実態をとらえることが重要であると考え、昭和 55 年度より 3 年ごとに東京都公立幼稚園に在籍する 5 歳児を対象に運動能力調査を実施している。本年度は調査年度に当たり、昭和 55 年度の調査から数えて 9 回目にあたる。

### 1 調査研究の目的

東京都公立幼稚園に在園する 5 歳児を対象に運動能力調査を実施し、過去 8 回の調査結果と比較して変化の傾向を明らかにするとともに、幼稚園における運動遊びに関するアンケート調査を実施し、その結果とあわせて報告することにより、幼稚園における運動遊びの充実のための資料の提供を行う。

### 2 調査研究の内容及び方法

#### (1) 調査の実施について

平成 16 年 9 月

調査協力園を対象に「運動能力調査に関する説明会」を行うとともに、運動遊びに関するアンケート調査を依頼した。

平成 16 年 10 月から 11 月までの 2 ヶ月の間の連続する 2 週間

各調査協力園において運動能力調査を実施した。

#### (2) 運動能力に関する調査方法

25m 走

30m の直線路を走り、スタートから 25m の地点を通過した時の時間を測定する。

立ち幅跳び

両足同時に踏み切って跳び、踏み切り線と着地した地点との最短距離を測定する。

ソフトボール投げ

助走を行わずにボールを投げ、制限ライン（投球するライン）と落下地点の距離を測定する。

体支持持続時間

2 つの机の間に立ち、両手を机について体を浮かし、体を支えられる時間を測定する。

両足連続跳び越し

50 cm 間隔に置かれた 10 個の積み木を両足で連続して跳ぶ時間を測定する。

#### (3) 調査対象幼児

都内全公立幼稚園のうち調査協力園 67 園に在籍する 5 歳児 2,441 人

（都内全公立幼稚園のうち休園を除く 221 園に在籍する 5 歳児 7,405 人の 32.7%）

〔平成 16 年 5 月 1 日現在〕

## 調査結果について

### 1 運動能力調査の結果

#### (1) 今回の調査結果の概要(過去 8 回の調査結果との比較)

25m走〔平均：男児6.3秒 女児6.4秒（前回男児6.4秒 女児6.5秒）〕

男児・女児とも平成 7 年度の調査まで変化がなく、前々回（平成10年度）の調査で初めて低下した種目である。前回（平成13年度）に比べ今回の調査では男児・女児ともに0.1秒上昇した。

立ち幅跳び〔平均：男児109.0cm 女児99.4cm（前回男児107.5cm 女児96.9cm）〕

男児は平成元年度まで、女児は昭和61年度まで上昇傾向にあったが、その後、低下傾向にある種目である。今回の調査では男児・女児ともに前回よりわずかながら上昇した。

ソフトボール投げ〔平均：男児6.4m 女児4.3m（前回男児6.3m 女児4.4m）〕

女児は昭和61年度まではやや上昇傾向にあったが、その後低下傾向にあり、男児は調査開始以来、低下傾向にある種目である。今回の調査では前回と比べ、男児は上昇したが、女児はわずかながら低下した。調査開始時点（昭和55年度）と比べ、男児で1.4m減、女児で0.5m減となった。また、男女の差について見た場合、3.0m（昭和55年度）から2.1m（今回）とその差が縮まっている。

体支持持続時間〔平均：男児48.6秒 女児49.4秒（前回男児51.8秒 女児47.9秒）〕

調査開始以来、男児・女児ともに低下している種目である。今回の調査では前回と比べて女児は1.5秒伸びたが、男児は今回が最低値となった。調査開始時点の昭和55年度と今回の結果を指数で比較した場合、男児・女児ともに約60に低下している。

両足連続跳び越し〔平均：男児5.7秒 女児5.5秒（前回男児5.4秒 女児5.6秒）〕

調査開始以来、全体としてあまり変化がないが、昭和55年度を100とした場合の指数比較で男児が96.5、女児が96.4と、長期的には低下の傾向にある。前回との比較では、女児は0.1秒上がり、男児は0.3秒低下した。

#### (2) 平成 16 年度東京都公立幼稚園 5 歳児の運動能力調査結果一覧

表 1

| 年齢     | 性別 | 種目<br>人数 | 25m走(秒) |      | 立ち幅跳び(cm) |      | ソフトボール投げ(m) |      | 体支持持続時間(秒) |      | 両足連続跳び越し(秒) |      |
|--------|----|----------|---------|------|-----------|------|-------------|------|------------|------|-------------|------|
|        |    |          | 平均      | 標準偏差 | 平均        | 標準偏差 | 平均          | 標準偏差 | 平均         | 標準偏差 | 平均          | 標準偏差 |
| 年齢区分 A | 男児 | 493      | 6.5     | 0.8  | 104.0     | 18.8 | 5.7         | 2.3  | 45.0       | 34.2 | 5.7         | 1.9  |
|        | 女児 | 487      | 6.6     | 1.0  | 95.3      | 15.7 | 4.0         | 1.5  | 44.9       | 34.4 | 5.7         | 1.3  |
|        | 合計 | 980      | 6.5     | 0.9  | 99.7      | 17.8 | 4.9         | 2.1  | 44.9       | 34.3 | 5.7         | 1.6  |
| 年齢区分 B | 男児 | 743      | 6.2     | 0.7  | 112.4     | 18.7 | 6.8         | 2.9  | 51.1       | 34.8 | 5.6         | 2.9  |
|        | 女児 | 718      | 6.3     | 0.6  | 102.2     | 15.2 | 4.5         | 1.4  | 52.4       | 36.6 | 5.4         | 1.0  |
|        | 合計 | 1461     | 6.3     | 0.6  | 107.3     | 17.8 | 5.7         | 2.6  | 51.7       | 35.7 | 5.5         | 2.2  |
| 全体     | 男児 | 1236     | 6.3     | 0.7  | 109.0     | 19.2 | 6.4         | 2.7  | 48.6       | 34.7 | 5.7         | 2.5  |
|        | 女児 | 1205     | 6.4     | 0.8  | 99.4      | 15.8 | 4.3         | 1.5  | 49.4       | 35.9 | 5.5         | 1.1  |
|        | 合計 | 2441     | 6.4     | 0.8  | 104.2     | 18.2 | 5.4         | 2.4  | 49.0       | 35.3 | 5.6         | 2.0  |

年齢区分 A ...5 歳 6 ヶ月 ~ 5 歳 11 ヶ月      年齢区分 B ...6 歳 0 ヶ月から 6 歳 5 ヶ月

## 2 有意差検定及び数値の算出方法

5種目について、男女間及び年齢区分間の有意差検定を行った。

表 2

| 種目<br>比較した項目 | 25m走 | 立ち幅跳び | ソフト<br>ボール投げ | 体支持持続<br>時間 | 両足連続<br>跳び越し |
|--------------|------|-------|--------------|-------------|--------------|
| 年齢区分Aの男女間    | ×    |       |              | ×           | ×            |
| 年齢区分Bの男女間    |      |       |              | ×           | ×            |
| 男児の年齢区分A・B間  |      |       |              |             | ×            |
| 女児の年齢区分A・B間  |      |       |              |             |              |

(有意水準5%で 有意差あり ×有意差無し)

男女間、年齢区分間で平均値同士に偶然とはいええない差があるかどうかを検定した。有意差ありとは、95%の確率で平均値に差があることである。

男女間では、「立ち幅跳び」「ソフトボール投げ」では有意差があるが、「(年齢区分Aの)25m走」「体支持持続時間」「両足連続跳び越し」では有意差が見られない。

また、年齢区分間については、「両足連続跳び越し」の男児を除く各種目において有意差がある。

## &lt; 有意差検定 &gt;

2つの資料の平均値に差があるかどうかを調べるもので、判断は確率によって行う。検定で確率的に差があることが示されたことを「有意に差がある」と言う。つまり、有意に差がある場合、誤差ではなく意味のある差がこの条件の間にあることを示している。また、判断するための基準の水準を有意水準と言いい、今回は5%に設定している。検定の方法は以下の通りである。

$$t = \frac{\bar{x} - \bar{y}}{\sqrt{\frac{s_x^2}{N_x} + \frac{s_y^2}{N_y}}}$$

とするとき、 $|t| > 1.96$  のとき、「有意水準5%で差がある」という。

「各種目の調査結果」において用いている数値の算出方法などについては以下のとおりである。

## &lt; 標準偏差 &gt;

資料の各値とその平均値との隔たりを表す量を偏差  $x - \bar{x}$  といい、偏差の平方の平均を分散という。さらに、分散の平方根を標準偏差という。

標準偏差は平均の周りにおける資料の散らばりの度合いを数量的に表す量である。算出方法は以下の通りである。

$$\text{標準偏差} = \sqrt{\frac{1}{N} \sum (x_k - \bar{x})^2}$$

## &lt; 変動係数 &gt;

変動係数は平均値に対する標準偏差の割合を表すもので、相対的な散らばりを表す指標である。標準偏差は測定単位の影響を受けるので単位の異なる資料の比較ができないが、変動係数は単位が異なる資料の散らばりの度合いを相互に比較できる。この値が大きいほど平均の周りにおける資料の散らばりの度合いが大きい。算出方法は以下の通りである。

$$\text{変動係数 } CV = \frac{\text{標準偏差}}{\text{平均値 } \bar{x}} \times 100$$

## &lt; 指数 &gt;

指数は基準の値を100としたときの他の値の割合を表すもので、変化を表す指標とした。第1回調査(昭和55年度)の記録を基準として、経年の変化を見るときに利用する。算出方法は以下のとおりである。

$$\text{指数} = \frac{\text{比較したい年度の平均値}}{\text{基準の年度の平均値}} \times 100$$

(ただし、25m走と両足連続跳び越しは逆数を指数とする)

## 調査結果

### 1 種目別調査結果

#### (1) 25m 走

##### < 調査結果の平均 >

- ・年齢区分 A では、平均値が男児は 6.5 秒、女児は 6.6 秒である。
- ・年齢区分 B では、平均値が男児は 6.2 秒、女児は 6.3 秒である。
- ・全体では、男児が 6.3 秒、女児は 6.4 秒である。（表 3）

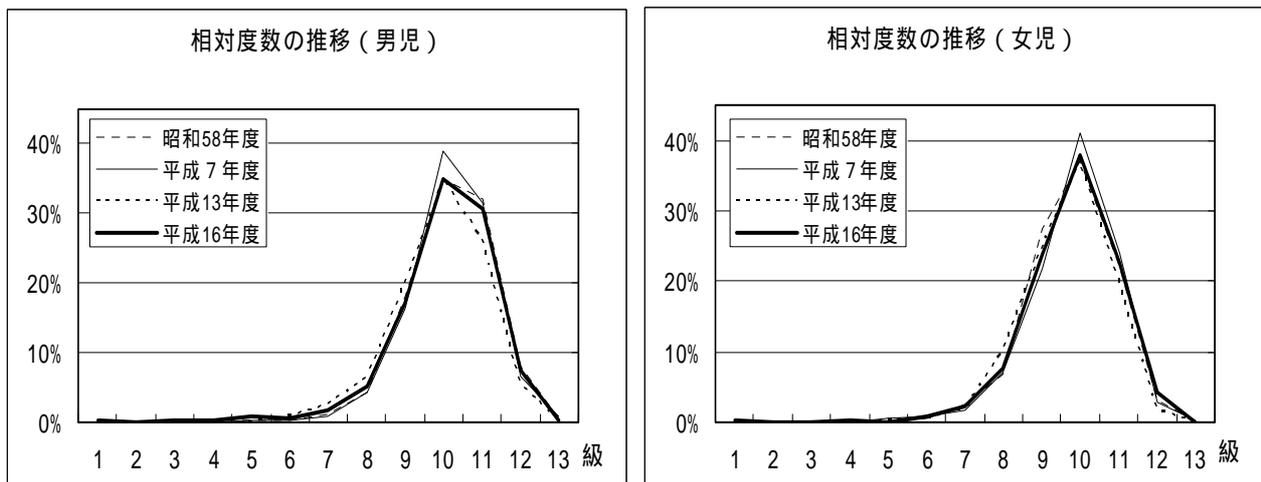
表 3

| 年<br>度         | 年<br>齢<br>項目<br>性別 | 年齢区分 A (5 歳 6 ヶ月 ~ 5 歳 11 ヶ月) |          |          |            |            | 年齢区分 B (6 歳 0 ヶ月 ~ 6 歳 5 ヶ月) |          |          |            |            | 全 体       |          |          |
|----------------|--------------------|-------------------------------|----------|----------|------------|------------|------------------------------|----------|----------|------------|------------|-----------|----------|----------|
|                |                    | 平均<br>(秒)                     | 標準<br>偏差 | 変動<br>係数 | 最高値<br>(秒) | 最低値<br>(秒) | 平均<br>(秒)                    | 標準<br>偏差 | 変動<br>係数 | 最高値<br>(秒) | 最低値<br>(秒) | 平均<br>(秒) | 標準<br>偏差 | 変動<br>係数 |
| 平成<br>16<br>年度 | 男児                 | 6.5                           | 0.8      | 12.5     | 5.1        | 12.4       | 6.2                          | 0.7      | 10.6     | 4.1        | 12.7       | 6.3       | 0.7      | 11.7     |
|                | 女児                 | 6.6                           | 1.0      | 14.7     | 5.2        | 23.3       | 6.3                          | 0.6      | 9.1      | 4.9        | 12.0       | 6.4       | 0.8      | 12.0     |

##### < 度数の分布の推移 >

男児・女児の度数の分布は、昭和 55 年度から平成 7 年を経て、平成 16 年度まで、散らばりに大きな変化は見られない。（図 1）

図 1



|      |                     |      |                        |      |                      |
|------|---------------------|------|------------------------|------|----------------------|
| 1 級  | 10.6 ~              | 2 級  | 10.1 ~ 10.5 (代表値 10.3) | 3 級  | 9.6 ~ 10.0 (代表値 9.8) |
| 4 級  | 9.1 ~ 9.5 (代表値 9.3) | 5 級  | 8.6 ~ 9.0 (代表値 8.8)    | 6 級  | 8.1 ~ 8.5 (代表値 8.3)  |
| 7 級  | 7.6 ~ 8.0 (代表値 7.8) | 8 級  | 7.1 ~ 7.5 (代表値 7.3)    | 9 級  | 6.6 ~ 7.0 (代表値 6.8)  |
| 10 級 | 6.1 ~ 6.5 (代表値 6.3) | 11 級 | 5.6 ~ 6.0 (代表値 5.8)    | 12 級 | 5.1 ~ 5.5 (代表値 5.3)  |
| 13 級 | 0 ~ 5.0 (代表値 2.5)   |      |                        |      |                      |

(単位：秒)

< 過去 8 回の調査との比較 >

平均値は、平成 7 年度までは男児が 6.2 秒、女児が 6.4 秒であり、男児が女児よりも 0.2 秒上回っている。それと比べ、平成 10 年度、13 年度の調査では男児は 0.2 秒、女児は 0.1 秒下がったが、今回の調査では、男児・女児とも前回調査より 0.1 秒上がっている。(図 2)

また、昭和 55 年度の結果を 100 とした指数変化では(図 3)、昭和 55 年度から平成 7 年度までは男児・女児ともに変化はなかったが、前々回(平成 10 年度)の調査で男児 96.9、女児 98.5 に低下した。今回の調査では男児 98.4、女児 100 で、ともに上昇している。調査開始時点との比較では、男児が 0.1 秒下がり、女児は変化がない。

図 2

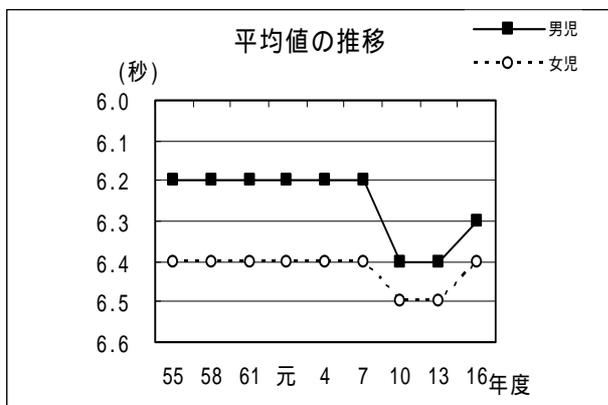


図 3

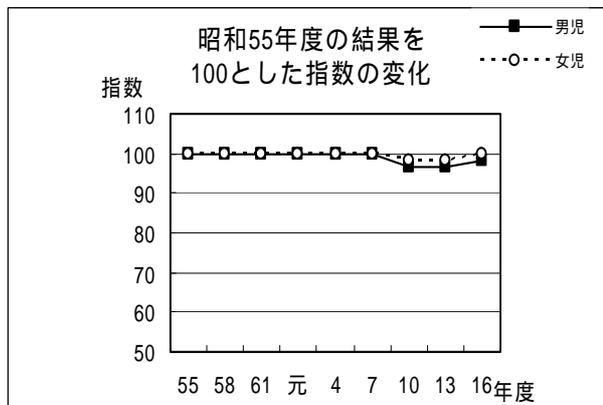
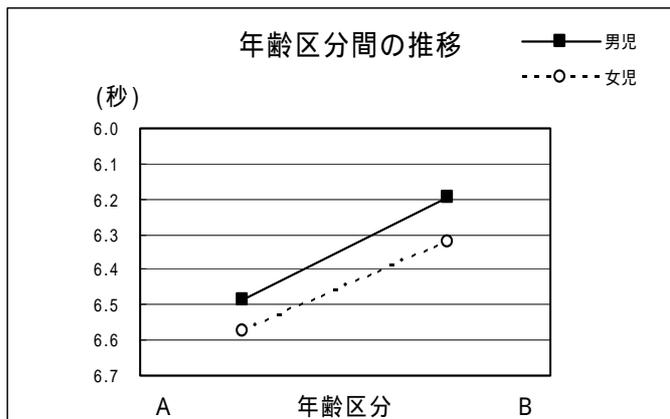


図 4

< 年齢区分間の運動能力の比較 >

年齢区分 A から B にかけて、男女とも 0.3 秒伸びている。

また、男児と女児の間の差は、年齢区分 A・Bとも 0.1 秒である。(図 4)



（2）立ち幅跳び

< 調査結果の平均 >

- ・年齢区分 A では、平均値が男児は 104.0cm、女児は 95.3cm である。
- ・年齢区分 B では、平均値が男児は 112.4cm、女児は 102.2cm である。
- ・全体では、男児が 109.0cm、女児 99.4cm である。（表 4）

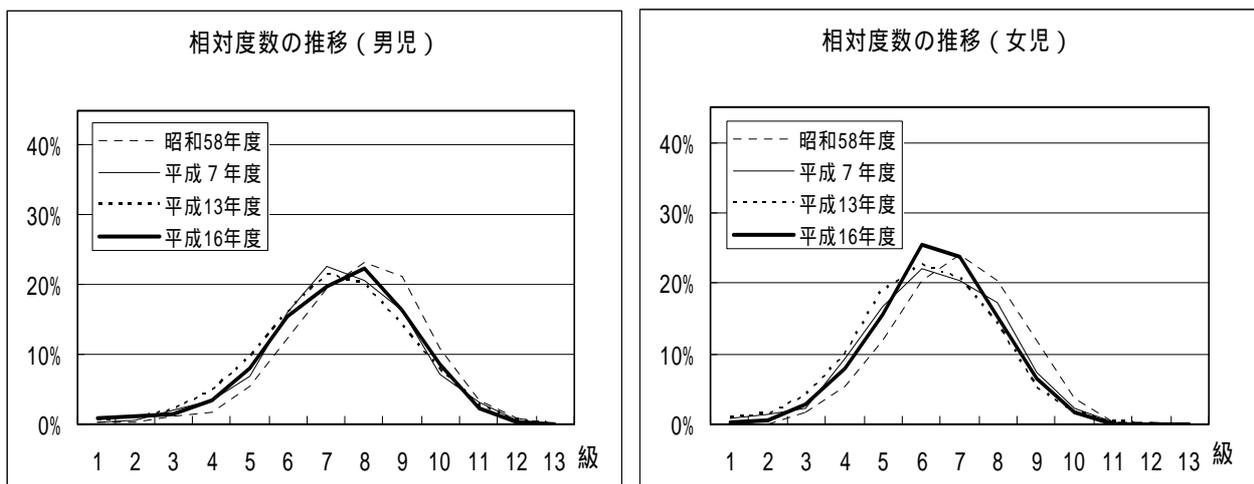
表 4

| 年<br>度         | 年<br>齢<br>項目<br>性別 | 年齢区分 A (5 歳 6 ヶ月 ~ 5 歳 11 ヶ月) |          |          |             |             | 年齢区分 B (6 歳 0 ヶ月 ~ 6 歳 5 ヶ月) |          |          |             |             | 全 体        |          |          |
|----------------|--------------------|-------------------------------|----------|----------|-------------|-------------|------------------------------|----------|----------|-------------|-------------|------------|----------|----------|
|                |                    | 平均<br>(cm)                    | 標準<br>偏差 | 変動<br>係数 | 最高値<br>(cm) | 最低値<br>(cm) | 平均<br>(cm)                   | 標準<br>偏差 | 変動<br>係数 | 最高値<br>(cm) | 最低値<br>(cm) | 平均<br>(cm) | 標準<br>偏差 | 変動<br>係数 |
| 平成<br>16<br>年度 | 男児                 | 104.0                         | 18.8     | 18.0     | 147         | 24          | 112.4                        | 18.7     | 16.7     | 161         | 29          | 109.0      | 19.2     | 17.6     |
|                | 女児                 | 95.3                          | 15.7     | 16.5     | 139         | 40          | 102.2                        | 15.2     | 14.9     | 140         | 30          | 99.4       | 15.8     | 15.9     |

< 度数の分布の推移 >

度数の分布は、前回の調査で低下の傾向を示していたが、今回の調査では、実線（平成 16 年度）が前回（平成 13 年度）に比べ右に推移し、男児・女児ともにやや上向きの傾向となった。（図 5）

図 5



|      |                     |      |                     |      |                     |
|------|---------------------|------|---------------------|------|---------------------|
| 1 級  | 0 ~ 50 (代表値 25)     | 2 級  | 51 ~ 60 (代表値 55)    | 3 級  | 61 ~ 70 (代表値 65)    |
| 4 級  | 71 ~ 80 (代表値 75)    | 5 級  | 81 ~ 90 (代表値 85)    | 6 級  | 91 ~ 100 (代表値 95)   |
| 7 級  | 101 ~ 110 (代表値 105) | 8 級  | 111 ~ 120 (代表値 115) | 9 級  | 121 ~ 130 (代表値 125) |
| 10 級 | 131 ~ 140 (代表値 135) | 11 級 | 141 ~ 150 (代表値 145) | 12 級 | 151 ~ 160 (代表値 155) |
| 13 級 | 161 ~               |      |                     |      |                     |

（単位：cm）

< 過去 8 回の調査との比較 >

平均値は、男児が昭和 61 年度に下がり、平成元年度には一度、数値が上がった。しかし、それ以降、低下傾向を示し、今回は、上昇に転じている。女児は、昭和 61 年度まで上がり、それ以降は、低下傾向を示していたが、今回の調査では男児と同様に上昇に転じている。

昭和 55 年度の結果を 100 とした指数変化では ( 図 7 )、男児の数値は平成元年度が最も高く ( 102.0 )、その後、低下傾向にあり前回調査では最低の 95.8 であったが、今回の指数は 97.1 となった。女児についても、昭和 61 年度までは上がっているが、平成元年度からは低下傾向にあり前回調査では最低の 94.8 であった。今回の調査の指数は、97.3 である。

図 6

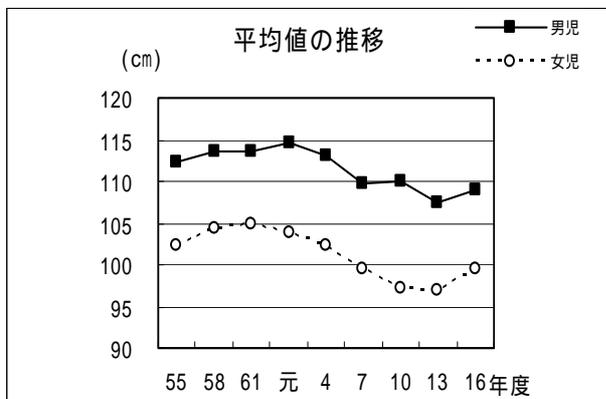


図 7

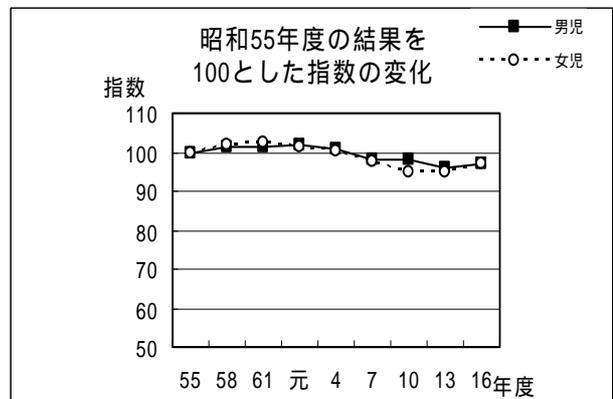
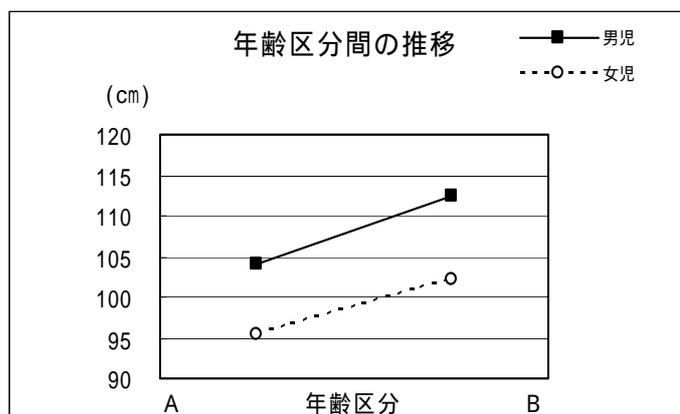


図 8

< 年齢区分間の運動能力の比較 >

年齢区分 A から B にかけて、男児は 8.4cm、女児は 6.9cm 伸びている。( 図 8 )

また、男児・女児間には、調査開始以来約 10cm 前後の開きがある。



(3) ソフトボール投げ

< 調査結果の平均 >

- ・年齢区分Aでは、平均値が男児は5.7m、女児は4.0mである。
- ・年齢区分Bでは、平均値が男児は6.8m、女児は4.5mである。
- ・全体では、男児が6.4m、女児は4.3mである。

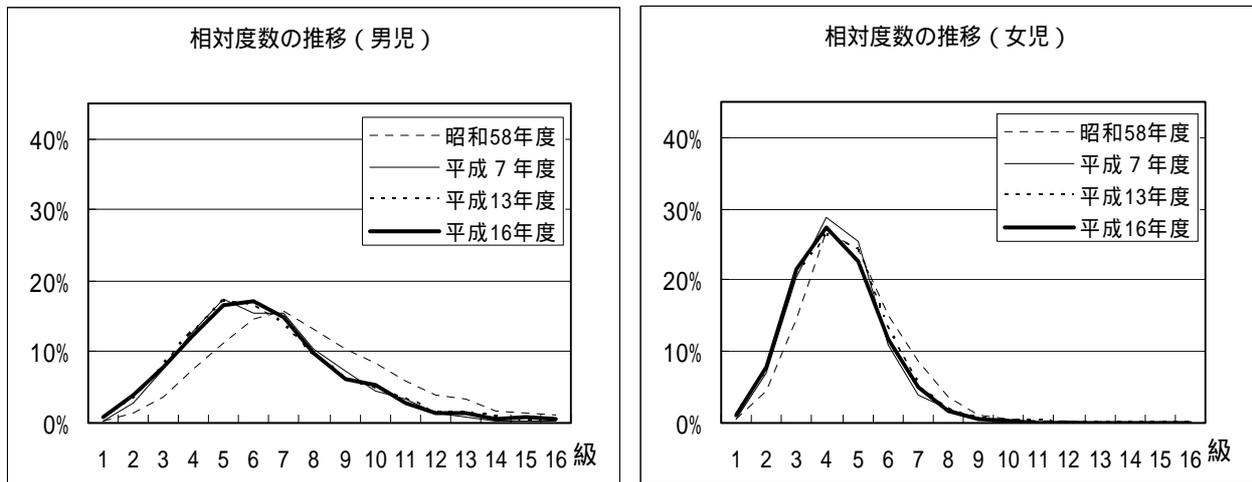
表 5

| 年<br>度         | 年<br>齢<br>項目<br>性別 | 年齢区分 A (5歳6ヶ月~5歳11ヶ月) |          |          |            |            | 年齢区分 B (6歳0ヶ月~6歳5ヶ月) |          |          |            |            | 全 体       |          |          |
|----------------|--------------------|-----------------------|----------|----------|------------|------------|----------------------|----------|----------|------------|------------|-----------|----------|----------|
|                |                    | 平均<br>(m)             | 標準<br>偏差 | 変動<br>係数 | 最高値<br>(m) | 最低値<br>(m) | 平均<br>(m)            | 標準<br>偏差 | 変動<br>係数 | 最高値<br>(m) | 最低値<br>(m) | 平均<br>(m) | 標準<br>偏差 | 変動<br>係数 |
| 平成<br>16<br>年度 | 男児                 | 5.7                   | 2.3      | 39.6     | 14         | 1          | 6.8                  | 2.9      | 42.6     | 20         | 1          | 6.4       | 2.7      | 42.5     |
|                | 女児                 | 4.0                   | 1.5      | 36.7     | 10         | 0          | 4.5                  | 1.4      | 31.8     | 9          | 1          | 4.3       | 1.5      | 34.2     |

< 度数の分布の推移 >

男児・女児とも、前回調査と比べ傾向に違いは見られない。  
調査開始時と比べると、次第に低下傾向にある。(図9)

図 9



|     |                        |     |                        |     |                        |
|-----|------------------------|-----|------------------------|-----|------------------------|
| 1級  | 0 ~ 1.0 (代表値 0.5)      | 2級  | 1.1 ~ 2.0 (代表値 1.5)    | 3級  | 2.1 ~ 3.0 (代表値 2.5)    |
| 4級  | 3.1 ~ 4.0 (代表値 3.5)    | 5級  | 4.1 ~ 5.0 (代表値 4.5)    | 6級  | 5.1 ~ 6.0 (代表値 5.5)    |
| 7級  | 6.1 ~ 7.0 (代表値 6.5)    | 8級  | 7.1 ~ 8.0 (代表値 7.5)    | 9級  | 8.1 ~ 9.0 (代表値 8.5)    |
| 10級 | 9.1 ~ 10.0 (代表値 9.5)   | 11級 | 10.1 ~ 11.0 (代表値 10.5) | 12級 | 11.1 ~ 12.0 (代表値 11.5) |
| 13級 | 12.1 ~ 13.0 (代表値 12.5) | 14級 | 13.1 ~ 14.0 (代表値 13.5) | 15級 | 14.1 ~ 15.0 (代表値 14.5) |
| 16級 | 15.1 ~                 |     |                        |     |                        |

(単位: m)

< 過去 8 回の調査との比較 >

平均値は、男児はゆるやかに低下している。女児についても昭和 61 年で最も大きな値を示し、その後ゆるやかな低下の傾向を示している。(図 10)

昭和 55 年度の結果を 100 とした指数変化では(図 11)、男児は昭和 55 年度の調査から平成 13 年度まで長期的に低下傾向を示している。今回は前回に比べ上昇した(80.8 82.1)。女児は、昭和 61 年度に最も大きな値(102.1)を示したが、その後、男児と同様低下傾向となり、平成 13 年度に上がったが、今回再び低下し、最も低い値を示した平成 10 年度と同じ結果(89.6)となった。また、調査開始時点と比べると男児で 1.4m、女児で 0.5m 低下している。

図 10

図 11

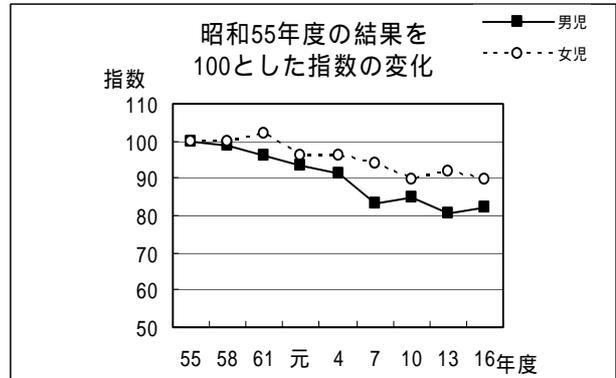
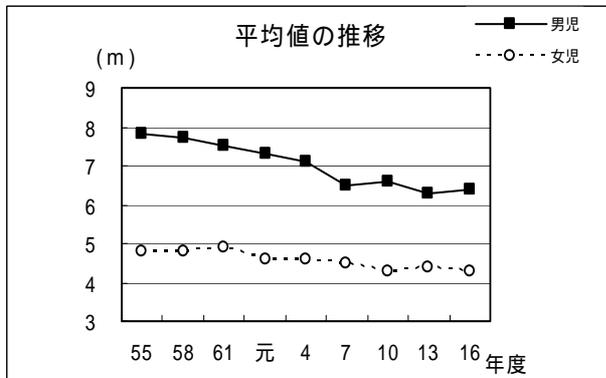
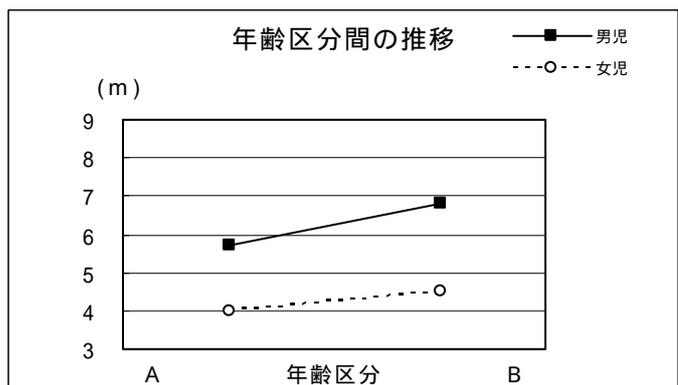


図 12

< 年齢区分間の運動能力の比較 >

年齢区分 A から B にかけて男児は、1.1 m、女児は 0.5m 伸びている。(図 12)



（４）体支持持続時間

< 調査結果の平均 >

- ・ 年齢区分 A では、平均値が男児は 45.0 秒、女児は 44.9 秒である。
- ・ 年齢区分 B では、平均値が男児は 51.1 秒、女児は 52.4 秒である。
- ・ 全体では、男児が 48.6 秒、女児は 49.4 秒である。

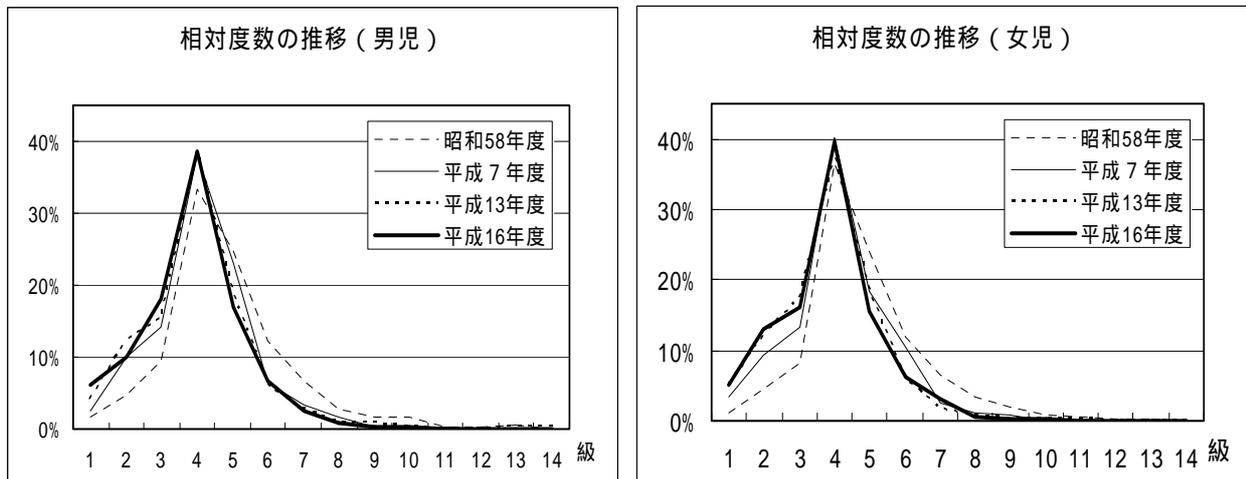
表 6

| 年<br>度         | 年<br>齢<br>項目<br>性別 | 年齢区分 A (5歳6ヶ月~5歳11ヶ月) |          |          |            |            | 年齢区分 B (6歳0ヶ月~6歳5ヶ月) |          |          |            |            | 全 体       |          |          |
|----------------|--------------------|-----------------------|----------|----------|------------|------------|----------------------|----------|----------|------------|------------|-----------|----------|----------|
|                |                    | 平均<br>(秒)             | 標準<br>偏差 | 変動<br>係数 | 最高値<br>(秒) | 最低値<br>(秒) | 平均<br>(秒)            | 標準<br>偏差 | 変動<br>係数 | 最高値<br>(秒) | 最低値<br>(秒) | 平均<br>(秒) | 標準<br>偏差 | 変動<br>係数 |
| 平成<br>16<br>年度 | 男児                 | 45.0                  | 34.2     | 76.1     | 441        | 1          | 51.1                 | 34.8     | 68.0     | 237        | 0          | 48.6      | 34.7     | 71.3     |
|                | 女児                 | 44.9                  | 34.4     | 76.6     | 343        | 2          | 52.4                 | 36.6     | 69.8     | 293        | 3          | 49.4      | 35.9     | 72.6     |

< 度数の分布の推移 >

昭和 58 年度から平成 16 年度まで、度数の分布の散らばりに大きな変化は見られないが、男児・女児ともに低い等級に移動する傾向にある。（図 13）

図 13



|      |                     |      |                     |      |                     |
|------|---------------------|------|---------------------|------|---------------------|
| 1 級  | 0 ~ 10 (代表値 5)      | 2 級  | 11 ~ 20 (代表値 15)    | 3 級  | 21 ~ 30 (代表値 25)    |
| 4 級  | 31 ~ 60 (代表値 45)    | 5 級  | 61 ~ 90 (代表値 75)    | 6 級  | 91 ~ 120 (代表値 105)  |
| 7 級  | 121 ~ 150 (代表値 135) | 8 級  | 151 ~ 180 (代表値 165) | 9 級  | 181 ~ 210 (代表値 195) |
| 10 級 | 211 ~ 240 (代表値 225) | 11 級 | 241 ~ 270 (代表値 255) | 12 級 | 271 ~ 300 (代表値 285) |
| 13 級 | 301 ~ 330 (代表値 315) | 14 級 | 331 ~               |      |                     |

（単位：秒）

< 過去 8 回の調査との比較 >

平均値は、男児が平成 10 年度まで低下し、前回調査では上がったが、今回再び下がり、調査開始以来、最低値となった。女児は、前回調査に比べ上がったが、長期的に見た場合、男児・女児ともに低下の傾向にある。

昭和 55 年度の結果を 100 とした指数変化では、男児・女児ともに約 60 に低下している。

図 14

図 15

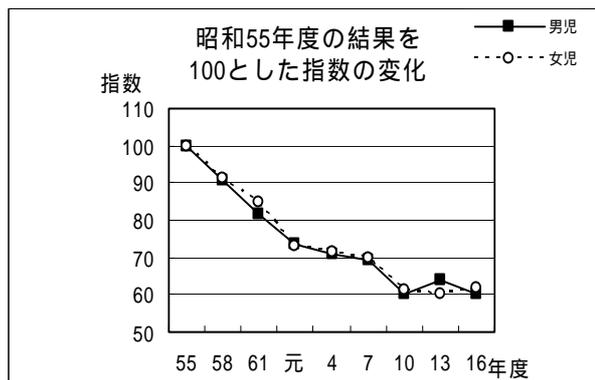
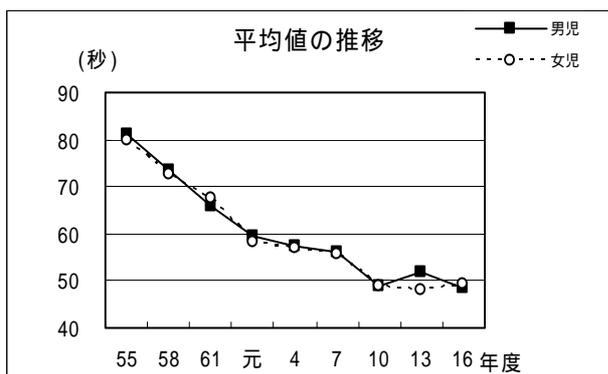
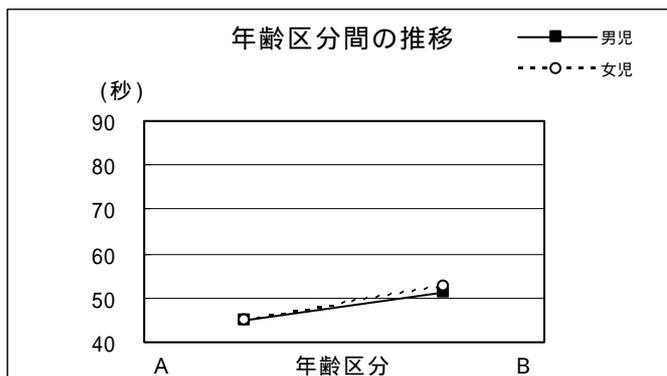


図 16

< 年齢区分間の運動能力の比較 >

年齢区分 A から B にかけて、男児は 6.1 秒、女児は 7.5 秒伸びている。(図 16)

男児と女児の間には、ほとんど差が見られない。



(5) 両足連続跳び越し

< 調査結果の平均 >

- ・ 年齢区分 A では、平均値が男児は 5.7 秒、女児は 5.7 秒である。
- ・ 年齢区分 B では、平均値が男児は 5.6 秒、女児は 5.4 秒である。
- ・ 全体では、男児が 5.7 秒、女児は 5.5 秒である。

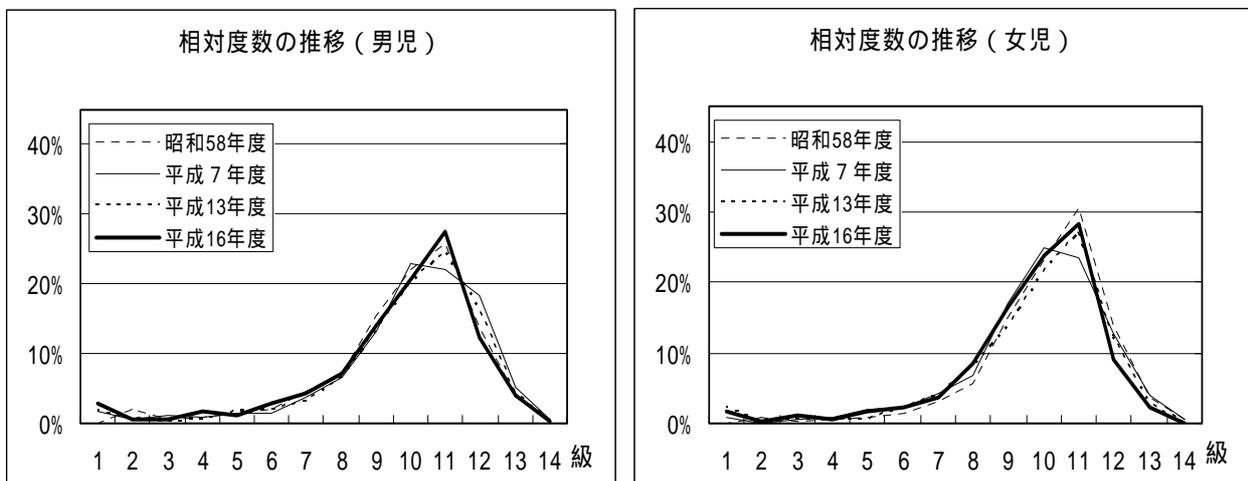
表 7

| 年<br>度         | 年<br>齢<br>項目<br>性別 | 年齢区分 A (5歳6ヶ月~5歳11ヶ月) |          |          |            |            | 年齢区分 B (6歳0ヶ月~6歳5ヶ月) |          |          |            |            | 全 体       |          |          |
|----------------|--------------------|-----------------------|----------|----------|------------|------------|----------------------|----------|----------|------------|------------|-----------|----------|----------|
|                |                    | 平均<br>(秒)             | 標準<br>偏差 | 変動<br>係数 | 最高値<br>(秒) | 最低値<br>(秒) | 平均<br>(秒)            | 標準<br>偏差 | 変動<br>係数 | 最高値<br>(秒) | 最低値<br>(秒) | 平均<br>(秒) | 標準<br>偏差 | 変動<br>係数 |
| 平成<br>16<br>年度 | 男児                 | 5.7                   | 1.9      | 32.4     | 3.4        | 22.0       | 5.6                  | 2.9      | 52.0     | 57.0       | 3.2        | 5.7       | 2.5      | 44.6     |
|                | 女児                 | 5.7                   | 1.3      | 23.1     | 3.8        | 14.1       | 5.4                  | 1.0      | 18.6     | 12.4       | 3.4        | 5.5       | 1.1      | 20.8     |

< 度数の分布の推移 >

男児・女児の度数分布は、昭和 58 年度から平成 16 年度まで、変化は見られない。(図 17)

図 17



|      |                     |      |                     |      |                     |
|------|---------------------|------|---------------------|------|---------------------|
| 1 級  | 9.6 ~               | 2 級  | 9.1 ~ 9.5 (代表値 9.3) | 3 級  | 8.6 ~ 9.0 (代表値 8.8) |
| 4 級  | 8.1 ~ 8.5 (代表値 8.3) | 5 級  | 7.6 ~ 8.0 (代表値 7.8) | 6 級  | 7.1 ~ 7.5 (代表値 7.3) |
| 7 級  | 6.6 ~ 7.0 (代表値 6.8) | 8 級  | 6.1 ~ 6.5 (代表値 6.3) | 9 級  | 5.6 ~ 6.0 (代表値 5.8) |
| 10 級 | 5.1 ~ 5.5 (代表値 5.3) | 11 級 | 4.6 ~ 5.0 (代表値 4.8) | 12 級 | 4.1 ~ 4.5 (代表値 4.3) |
| 13 級 | 3.6 ~ 4.0 (代表値 3.8) | 14 級 | 0 ~ 3.5 (代表値 1.8)   |      |                     |

(単位：秒)

< 過去 8 回の調査との比較 >

平均値は、男児は前回に比べ低下し、女児は上昇した。( 図 18 )

昭和 55 年度の結果を 100 とした指数変化では ( 図 19 ) 今回、男児は 96.5、女児は 96.4 であった。

図 18

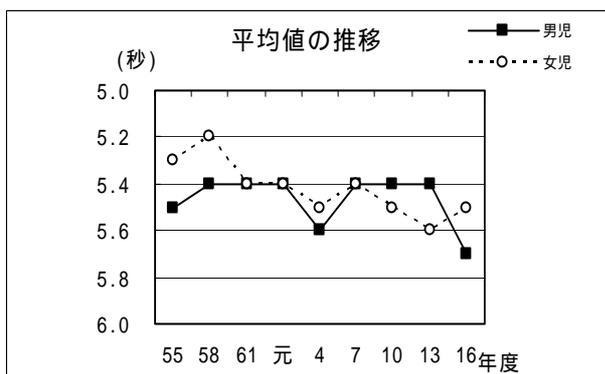


図 19

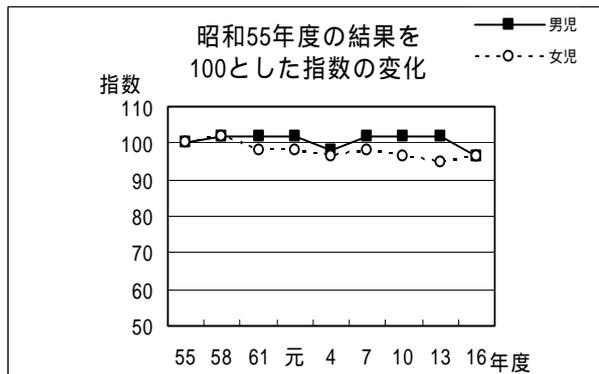
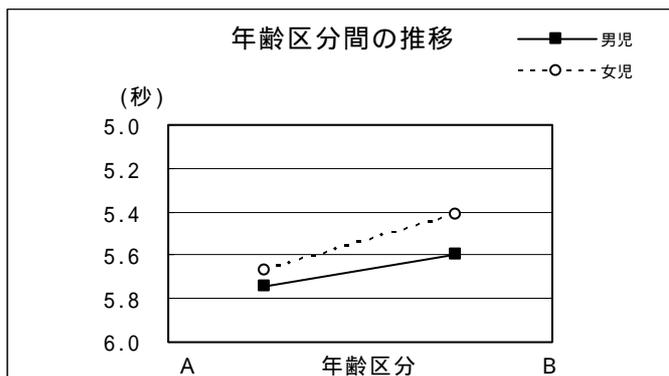


図 20

< 年齢区分間の運動能力の比較 >

年齢区分 A から B にかけて、男児は 0.1 秒、女児は 0.3 秒伸びている。( 図 20 )

女児の年齢区分 A・B 間で有意差が見られる。



## 2 運動遊びに関するアンケート調査（教員対象）の結果

本調査では、幼児の運動能力の発達と関係があると考えられる事柄について、教員に対しアンケートを実施した。

設問 1・「日頃から運動遊びを行うスペースが園内に十分ある」との回答をした園は 57.1%、「近隣の小学校・中学校を利用している」との回答は 33.3%であった。「その他」の内容としては屋上等の活用が挙げられた。

また、設問 2・「日頃からどのような運動遊びをしているか」については、第 1 位が「鬼遊び（70.3%）」であり、「かけっこ等（59.4%）」、「ボール遊び（48.4%）」、「なわ跳び（同）」がそれに続いている。アンケートの結果からは、園児の遊びの多くが「走ること」に関することであり、次いでボールやなわ跳びなどの用具を使用するもの、「鉄棒」「うんてい」など固定された遊具を使用するものとなっている。こうした傾向は、前回調査とほぼ同様の結果であった。

前回調査（平成 13 年度）では、「鬼遊び」が第 1 位で、第 2 位のリレーと 3 倍以上の開きがあったが、今回、選択式（該当するもの 3 つ）の設問としたこともあり、その他の遊びの回答数が増えたため、前回ほど大きな差は見られなかった。

アンケートではこの他、設問 3 として、「園児の運動遊びに関する環境の構成や指導に関して、工夫している点」を自由記述で求めたところ、園児の運動能力の向上に向けた取り組みや工夫を行っている園が多くあることが分かった。各園では、それぞれの条件に考慮しながら園児の運動遊びが行われるように努力していることがうかがわれる。

この点については、次章の「調査結果のまとめ」（167 ページ）で詳しく述べることにする。

図 21

設問 1 園児が日ごろから運動遊びができるスペースが園内もしくは園の周囲にありますか。

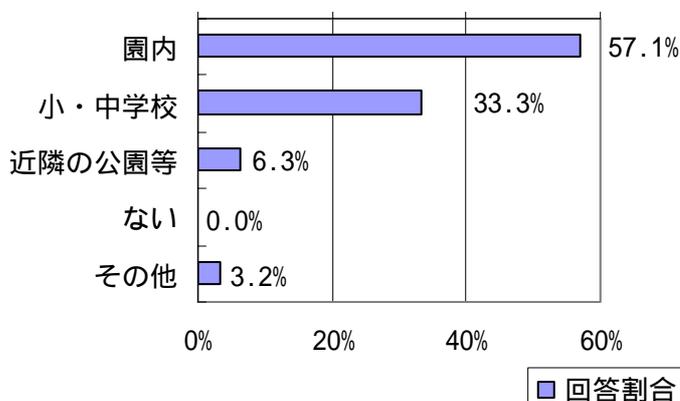
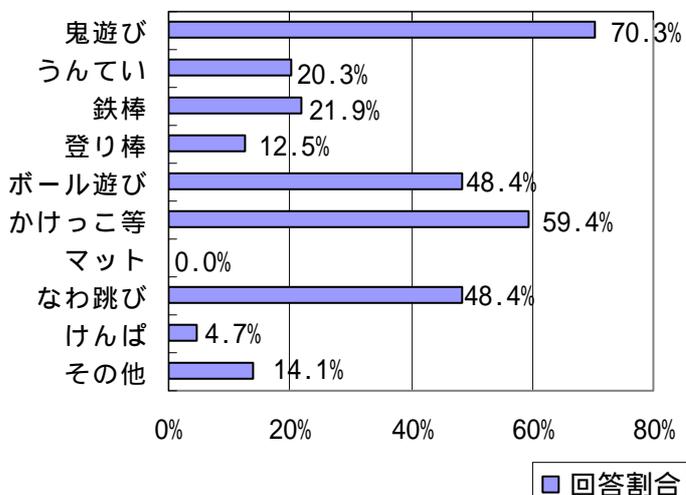


図 22

設問 2 園児は日頃からどのような運動遊びをしていますか。（該当するもの 3 つ）



## 調査結果のまとめ

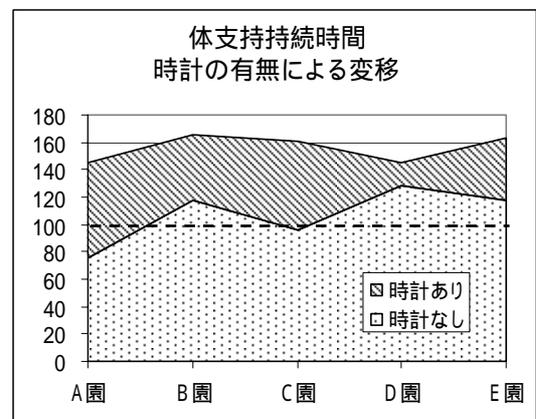
## 1 調査結果から

- ・本調査は昭和 55 年度より 3 年ごとに実施し、今回が 9 回目となる。前回 (平成 13 年度) に比べ、今回の調査結果で、「25m 走」「立ち幅跳び」の 2 種目は、男児・女児ともにわずかに上昇傾向を示した。
- ・昭和 55 年度の結果を 100 としてみた場合、「25m 走」「立ち幅跳び」「両足連続跳び越し」の 3 種目の今回調査における指数 (全体) は、それぞれ 99.2、97.2、96.5 である。  
(注・「25m 走」と「両足連続跳び越し」については、逆数を指数として比較している。)
- ・「ソフトボール投げ」については、前回調査と比べてほとんど変化がないが、昭和 55 年度の調査開始時点と比べると男児で 1.4m の減 (指数 82.1)、女児で 0.5m の減 (指数 89.6) と低下している。また、昭和 55 年度は男女間の差が 3m (男児 7.8m、女児 4.8m) であったのが、今回は 2.1m (男児 6.4m、女児 4.3m) と、調査開始時点と比べ、その差が 0.9m 縮まっている。
- ・「体支持持続時間」については、男児は今回が最低値となった。女児はわずかに上昇に転じたが、調査開始時点との比較では、今回、男児の指数が 60.1、女児の指数が 62.0 であり、この種目における低下傾向が著しい。

今回、「体支持持続時間」について、幾つかの園で同種目を実施した後、期間をおいて、再度、時計を見せて行う比較調査を行ったところ、

図 23

右のグラフ (図 23) に示したように、男女とも平均で 25 秒前後記録が伸びた。これは、目標が設定されることで、幼児のがんばろうとする気持ちや心の在り様に影響を及ぼし、記録が上昇したものと考えられる。以上のことから、「体支持持続時間」については、単に体力ばかりでなく、内発的動機付けのように自ら目標をもって取り組んでいこうとするような、幼児の気持ちの上での低下があるのではないかと考えることができる。



(注) 全体平均を 100 とした場合の指数による比較

- ・年齢区分による運動能力の推移を見ると、区分 A (5 歳 6 ヶ月 ~ 5 歳 11 ヶ月) と区分 B (6 歳 0 ヶ月 ~ 6 歳 5 ヶ月) では、すべての種目で区分 B の記録が伸びており、この時期は、運動能力が伸びる時期であることを示している。(154 ページの表 1 及び各種目に示した「年齢区分間の推移」参照) また、男児・女児間を比較した場合「(区分 B の) 25m 走」「立ち幅跳び」「ソフトボール投げ」の各種目において有意差が見られるが、他の種目(「(区分 A の) 25m 走」「体支持持続時間」「両足連続跳び越し」)では差は見られなかった。
- ・今回の調査と合わせて実施した教員向けのアンケート調査では、幼児の運動能力をはぐくむために計画や工夫、配慮などの保育内容等及び施設や設備などで工夫をしている園が多くあることも分かった。

< アンケートの記述内容から >

保育内容の工夫例

- ・鬼遊びやリレー、運動会に向けての個の課題への挑戦など、年間指導計画に個や学級で取り組む運動遊びを位置付けている。
- ・園内研修で、「身体を動かすことを楽しみ、やれた、できたという満足感を味わえる年間指導計画の作成」などのテーマに取り組み、幼児が体の動きを意識して運動できる活動を取り入れるようにしている。
- ・鬼遊びやドッジボールなどを時期に応じて体験させ、学年の友達と自主的に遊びが行えるよう工夫している。

施設・設備の工夫例

- ・園庭に大小二つの築山を設置し、山の起伏を利用して遊ぶことにより、幼児の動きに変化がつけられるようにしている。
- ・発達、年齢、興味などに応じた用具や遊具（綱渡り、網渡り、三角竹馬、なわ跳びなど）を用意し、幼児が意欲をもって繰り返し取り組めるようにしている。
- ・ボールの的当て、輪をくぐらせる場所など、いつでも自分から取り組めるような遊びの場を設定している。

## 2 運動能力向上に向けて

「子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について（答申）」（平成 17 年 1 月、中央教育審議会）では、最近の幼児の状況について、「運動能力が低下している」などの課題を指摘している。

今回の調査結果では、特に「ソフトボール投げ」（昭和 55 年度の結果を 100 とした場合の指数、男児 82.1、女児 89.6）と「体支持持続時間」（同、男児 60.1、女児 62.0）の 2 種目について、長期的な低下傾向にあることが分かった。いずれの種目においても、今後、引き続き、その変化について注目していく必要がある。

以上のような調査結果から、今後、各園においては、次の 2 点に留意して園児の運動能力の向上を図ることが有効であると考えられる。

- (1) 一層計画的に運動遊びを取り入れ、年間を通じて体力の向上を図る取組みを行う。  
調査の結果を踏まえ、幼児の遊び、とりわけ戸外での遊びを一層計画的に行い、日頃から園児の運動能力の向上を図る取組みが行えるようにする。
- (2) 運動の幅を広げるなど、意図的に多様な動きのある遊びを取り入れる。  
運動遊びに関する園児の実態をとらえ、ボール遊びや持久力を高める運動など、遊びの中で多様な動きができるように、意図的な環境の整備を図る。

資料 1 運動能力測定の方法

(1) 25m走

[ 準備 ]

30m の直線路を作り、25mの所に印をつけておく。コースは 2 ~ 3 コース。コース幅は 80cm 前後 ( およそで構わない。小学校の校庭等を利用する場合は引かれているコース幅でよい。 )

ストップウォッチ ( 測定用 必要個数 )  
旗 ( 等旗 ) または カラーコーン ( 25m 地点 2 本 )

小旗 ( スタート合図用 1 本 )

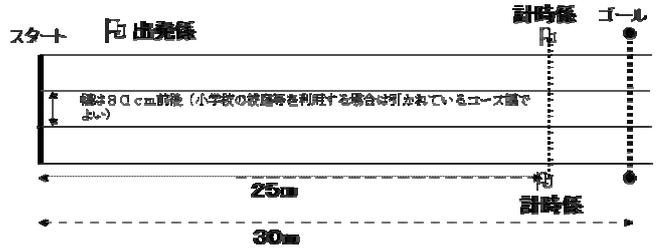
ゴールテープ ( 30m 地点 )

旗は、主にスタートの合図を計時係に知らせるための目印。直径 2 ~ 3cm くらい、長さ 50cm くらいの棒に 25 x 25cm くらいの布地がついたものを用意する。既製でも、手製でもよい。およその目印。

[ 方法 ]

スタートラインを踏まないようにする。両足を前後に開き、「よいい」の姿勢をとらせる。

出発係は、スタートラインの斜め前方に立ち、スタートの合図と同時に、小旗を下から上に上げてスタートさせる。( 計時係の目安



となるので、合図と同時にすばやくあげるようにする)

ゴールテープを 30m の所にはり、そこまで疾走させる。

- ・ 2 ~ 3 人ずつ走らせる。
- ・ がんばらせるために、周りで応援させる。ゴール後の衝突を防ぐなど、安全面の確認を行う。

[ 幼児への指示 ] ( 例 )

線を踏まないようにして立ちます。  
「よいい」と言ったら片方の足を後ろに引いて合図を待ちます。  
「どん」と言ったら、向こうのテープまで一生懸命に走りましょう。

(2) 立ち幅跳び

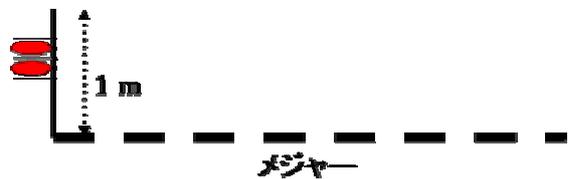
[ 準備 ]

メジャー ( 1.5 ~ 2m )

床に幅 2cm の踏み切り線をひく。その線に直角にメモリ線 ( メジャー ) を置く。

幼児はくつ下などを脱ぎ、はだしになる。

踏み切り線には、10cm 間隔で足を置く場所をテープで示す。



- ・ 踏み切るとき、「1、2、3」「それ！」などと声をかけて励ます。

[ 方法 ]

踏み切り線を踏まないようにして両足をわずかに離してテープの線内に立ち、両足同時踏み切りで、できるだけ遠くに跳ぶ。

二重踏み切りや片足踏み切りをしないように示範する。

二重踏み切りや片足踏み切りはやり直しをさせる。

- ・ 踏み切るとき、手を振って反動を利用させる。

[ 幼児への指示 ] ( 例 )

この線を踏まないようにします。手を振って、両足を一緒にして跳びましょう。  
このようになったら ( 二重踏み切りや、片足踏み切りの示範 ) やり直しです。  
ひざを曲げて、両手を後ろに振って、両手を上に振り上げて跳びましょう。  
着地の時には、( 自然に ) 手は前に出よう。

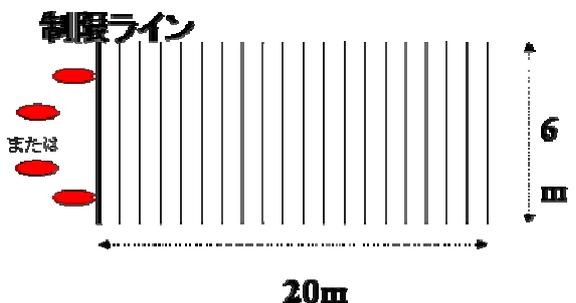
(3) ソフトボール投げ

[ 準備 ]

ソフトボール教育 1 号

メジャー

幅 6m で 1m 間隔に投球線を引いておく。



[方法]

両足を前後に開き、前足が制限ラインを踏まないようにして立つ。(右手投げは左足が前足になるようにして立つ)

制限ラインを踏んだり踏み越したりすることなく、助走なしでオーバースローで遠くに投げる。

投げるときに片足が上がってもかまわないが、制限ラインは超えないようにさせる。

投球が 20m のラインを超えた場合は、メジャーを使って測る。

2 回続けて投球して、よい方の記録を記入

する。

- ・ 6m のラインの横から外れたときは、やり直しになる。
- ・ 投げるときに片足が上がってもかまわないが、制限ラインは超えないようにする。

[幼児への指示] (例)

線を踏まないようにします。

ボールを持っている手と反対の足を前に出します。

そして、できるだけ高く遠くへ、上から投げましょう。

(4) 体支持持続時間

[準備]

幼児が立って、腕を体に沿って下げたときに、肘の高さぐらいの机(巧技台)2 台を肩幅の間隔に開けて置く。

足をおく台(測定中は取り除く)

ストップウォッチ

については、別に用意できれば、やや高さの低いものを用意する。

[方法]

机と机の間に立つ。

「用意」の合図で、両腕を曲げ、手をそれぞれの机におく。

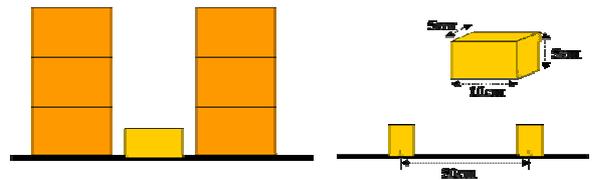
「始め」の合図で、両腕を伸ばしながら足を床から離す。

両腕で体重を支えられなくなるまで続ける。

- ・ 次の場合は失敗であることを示範する。

イ 腕が曲がったとき

ロ 手のひら以外が机や床に触れたとき



[幼児への指示] (例)

最初に台の上に乗って、両手を机の端の所に置きます。

「よい、はじめ」の合図で腕を伸ばして、足を床から離します。

そのままできるだけ長い間ぶら下がっていきましょう。まわりの人は応援をしてあげましょう。ただし、数をかぞえたりしてはいけません。

- ・ 励ましの声をかけてがんばらせるが、この時、「1、2、3・・・」のように数をかぞえたり、時計を見せたりしないようにする。
- ・ この種目は 1 回だけ行わせる。体が揺れる場合には、軽く押さえて止めてやる。

(5) 両足連続跳び越し

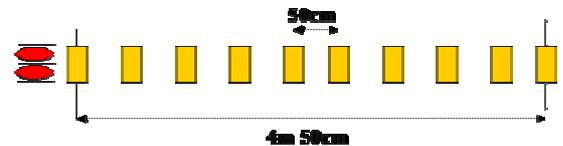
[準備]

メジャー

積み木(縦 5cm 横 10cm 高さ 5cm)を 10 個、4m50cm の距離を 50cm 毎にビニールテープ(チョーク)で印をつけ、10 個の積み木を並べる。

ストップウォッチ

ビニールテープ(チョーク)



ハ 積み木の上上がったたり、蹴飛ばしたりして散乱させたとき

- ・ 失敗の場合は、もう一度やり直しをさせる。
- ・ 計測する際に、幼児の横について計測すると励みになる。

[方法]

最初の積み木の前に立つ。「始め」の合図で 10 個の積み木を一つ一つ正確に、かつ迅速に連続して跳び越す。

次の場合は、失敗であることを示範する。

イ 両足を揃えて跳ばないとき

ロ 積み木を 2 個以上一度に跳び越したとき

[幼児への指示] (例)

両足を揃えてつけてください。

積み木を 1 つずつお休みなしで、次々と跳び越しましょう。

片足で跳び越さず、両足で跳び越しましょう。

2 つ一緒に跳び越してはいけません。1 つずつ跳び越しましょう。

## 資料2 種目別調査結果の推移

## (1) 25m走

| 年<br>度         | 年<br>齢<br>項目<br>性別 | 年 齢 区 分 A  |            |            |              |              | 年 齢 区 分 B  |            |            |              |              | 全 体        |            |            |
|----------------|--------------------|------------|------------|------------|--------------|--------------|------------|------------|------------|--------------|--------------|------------|------------|------------|
|                |                    | 平 均<br>(秒) | 標 準<br>偏 差 | 変 動<br>係 数 | 最 高 値<br>(秒) | 最 低 値<br>(秒) | 平 均<br>(秒) | 標 準<br>偏 差 | 変 動<br>係 数 | 最 高 値<br>(秒) | 最 低 値<br>(秒) | 平 均<br>(秒) | 標 準<br>偏 差 | 変 動<br>係 数 |
| 昭和<br>55<br>年度 | 男 児                | 6.3        | 0.5        | 7.9        | 5.1          | 8.4          | 6.1        | 0.6        | 9.8        | 4.9          | 8.4          | 6.2        | 0.6        | 9.7        |
|                | 女 児                | 6.5        | 0.6        | 9.2        | 5.4          | 10.9         | 6.3        | 0.5        | 7.9        | 5.0          | 9.6          | 6.4        | 0.6        | 9.4        |
| 昭和<br>58<br>年度 | 男 児                | 6.3        | 0.6        | 9.5        | 5.0          | 10.5         | 6.1        | 0.5        | 8.2        | 4.5          | 10.4         | 6.2        | 0.6        | 9.7        |
|                | 女 児                | 6.5        | 0.5        | 9.2        | 5.0          | 12.6         | 6.3        | 0.5        | 7.9        | 5.0          | 9.5          | 6.4        | 0.6        | 9.4        |
| 昭和<br>61<br>年度 | 男 児                | 6.3        | 0.5        | 7.9        | 4.6          | 9.3          | 6.1        | 0.5        | 8.2        | 4.7          | 8.1          | 6.2        | 0.5        | 8.1        |
|                | 女 児                | 6.5        | 0.6        | 9.2        | 4.5          | 9.4          | 6.3        | 0.5        | 7.9        | 3.7          | 11.1         | 6.4        | 0.6        | 9.4        |
| 平成<br>元<br>年度  | 男 児                | 6.4        | 0.8        | 12.2       | 5.0          | 17.0         | 6.1        | 0.6        | 9.0        | 4.2          | 8.0          | 6.2        | 0.7        | 11.3       |
|                | 女 児                | 6.5        | 0.6        | 9.6        | 4.9          | 9.1          | 6.3        | 0.6        | 9.3        | 4.8          | 13.2         | 6.4        | 0.6        | 9.4        |
| 平成<br>4<br>年度  | 男 児                | 6.3        | 0.6        | 9.1        | 4.4          | 9.6          | 6.1        | 0.5        | 8.8        | 4.0          | 8.8          | 6.2        | 0.6        | 9.7        |
|                | 女 児                | 6.5        | 0.5        | 8.4        | 5.1          | 9.0          | 6.3        | 0.5        | 8.0        | 5.2          | 9.0          | 6.4        | 0.5        | 7.8        |
| 平成<br>7<br>年度  | 男 児                | 6.3        | 0.5        | 7.9        | 5.1          | 9.0          | 6.2        | 0.5        | 8.1        | 4.5          | 10.5         | 6.2        | 0.6        | 9.7        |
|                | 女 児                | 6.5        | 0.6        | 9.2        | 4.8          | 8.9          | 6.3        | 0.5        | 7.9        | 4.8          | 8.6          | 6.4        | 0.5        | 7.8        |
| 平成<br>10<br>年度 | 男 児                | 6.5        | 0.7        | 10.8       | 4.8          | 11.1         | 6.3        | 0.7        | 11.1       | 5.0          | 12.6         | 6.4        | 0.7        | 10.9       |
|                | 女 児                | 6.6        | 0.7        | 10.6       | 5.3          | 10.4         | 6.5        | 0.6        | 9.2        | 5.0          | 10.3         | 6.5        | 0.6        | 9.2        |
| 平成<br>13<br>年度 | 男 児                | 6.5        | 0.7        | 10.7       | 5.0          | 11.0         | 6.2        | 0.6        | 9.5        | 4.6          | 10.5         | 6.4        | 0.7        | 10.3       |
|                | 女 児                | 6.6        | 0.6        | 8.9        | 5.2          | 8.7          | 6.5        | 1.0        | 14.7       | 4.6          | 21.0         | 6.5        | 0.8        | 12.7       |
| 平成<br>16<br>年度 | 男 児                | 6.5        | 0.8        | 12.5       | 5.1          | 12.4         | 6.2        | 0.7        | 10.6       | 4.1          | 12.7         | 6.3        | 0.7        | 11.7       |
|                | 女 児                | 6.6        | 1.0        | 14.7       | 5.2          | 23.3         | 6.3        | 0.6        | 9.1        | 4.9          | 12.0         | 6.4        | 0.8        | 12.0       |

## (2) 立ち幅跳び

| 年<br>度         | 年<br>齢<br>項目<br>性別 | 年 齢 区 分 A   |            |            |               |               | 年 齢 区 分 B   |            |            |               |               | 全 体         |            |            |
|----------------|--------------------|-------------|------------|------------|---------------|---------------|-------------|------------|------------|---------------|---------------|-------------|------------|------------|
|                |                    | 平 均<br>(cm) | 標 準<br>偏 差 | 変 動<br>係 数 | 最 高 値<br>(cm) | 最 低 値<br>(cm) | 平 均<br>(cm) | 標 準<br>偏 差 | 変 動<br>係 数 | 最 高 値<br>(cm) | 最 低 値<br>(cm) | 平 均<br>(cm) | 標 準<br>偏 差 | 変 動<br>係 数 |
| 昭和<br>55<br>年度 | 男 児                | 108.1       | 16.5       | 15.3       | 152.0         | 50.0          | 114.8       | 17.5       | 15.2       | 160.0         | 54.0          | 112.2       | 17.4       | 15.5       |
|                | 女 児                | 97.9        | 15.8       | 16.1       | 137.0         | 36.0          | 105.0       | 15.7       | 15.0       | 146.0         | 60.0          | 102.2       | 16.1       | 15.8       |
| 昭和<br>58<br>年度 | 男 児                | 109.8       | 17.4       | 15.8       | 159.0         | 20.0          | 117.3       | 16.8       | 14.3       | 180.0         | 34.0          | 113.7       | 17.5       | 15.4       |
|                | 女 児                | 101.1       | 15.3       | 15.1       | 160.0         | 44.0          | 107.5       | 16.1       | 15.0       | 156.0         | 19.0          | 104.4       | 16.0       | 15.3       |
| 昭和<br>61<br>年度 | 男 児                | 109.4       | 16.6       | 15.2       | 154.0         | 48.0          | 116.4       | 17.3       | 14.9       | 170.0         | 38.0          | 113.5       | 17.4       | 15.3       |
|                | 女 児                | 101.1       | 15.9       | 15.7       | 147.0         | 38.0          | 107.3       | 16.7       | 15.6       | 198.0         | 39.0          | 104.9       | 16.7       | 15.9       |
| 平成<br>元<br>年度  | 男 児                | 110.3       | 16.1       | 14.6       | 161.0         | 58.0          | 117.7       | 17.2       | 14.6       | 164.0         | 45.0          | 114.5       | 17.4       | 15.2       |
|                | 女 児                | 100.0       | 16.7       | 16.7       | 148.0         | 35.0          | 106.2       | 16.2       | 15.3       | 150.0         | 52.0          | 103.8       | 16.8       | 16.2       |
| 平成<br>4<br>年度  | 男 児                | 108.4       | 17.2       | 15.9       | 152.0         | 57.0          | 116.5       | 17.5       | 15.1       | 171.0         | 62.0          | 113.2       | 17.7       | 15.6       |
|                | 女 児                | 98.7        | 15.7       | 15.9       | 140.0         | 50.0          | 104.8       | 16.7       | 16.1       | 149.0         | 40.0          | 102.3       | 16.5       | 16.1       |
| 平成<br>7<br>年度  | 男 児                | 105.9       | 17.7       | 16.7       | 159.0         | 45.0          | 111.8       | 18.2       | 16.3       | 152.0         | 45.0          | 109.8       | 18.3       | 16.7       |
|                | 女 児                | 96.1        | 17.7       | 18.4       | 138.0         | 15.0          | 101.3       | 16.9       | 16.7       | 148.0         | 38.0          | 99.6        | 17.2       | 17.3       |
| 平成<br>10<br>年度 | 男 児                | 105.4       | 18.9       | 17.9       | 155.0         | 30.0          | 113.0       | 18.9       | 16.7       | 184.0         | 30.0          | 110.0       | 19.8       | 18.0       |
|                | 女 児                | 93.9        | 17.2       | 18.3       | 143.0         | 10.0          | 98.7        | 18.7       | 18.9       | 141.0         | 6.0           | 97.1        | 18.3       | 18.8       |
| 平成<br>13<br>年度 | 男 児                | 103.2       | 18.3       | 17.7       | 147.0         | 29.0          | 110.6       | 19.2       | 17.3       | 158.0         | 5.0           | 107.5       | 19.1       | 17.8       |
|                | 女 児                | 94.0        | 17.2       | 18.3       | 193.0         | 47.0          | 99.0        | 17.1       | 17.3       | 154.0         | 25.0          | 96.9        | 17.3       | 17.9       |
| 平成<br>16<br>年度 | 男 児                | 104.0       | 18.8       | 18.0       | 147.0         | 24.0          | 112.4       | 18.7       | 16.7       | 161.0         | 29.0          | 109.0       | 19.2       | 17.6       |
|                | 女 児                | 95.3        | 15.7       | 16.5       | 139.0         | 40.0          | 102.2       | 15.2       | 14.9       | 140.0         | 30.0          | 99.4        | 15.8       | 15.9       |

(3) ソフトボール投げ

| 年度     | 性別 | 年齢区分 A    |          |          |            |            | 年齢区分 B    |          |          |            |            | 全体        |          |          |
|--------|----|-----------|----------|----------|------------|------------|-----------|----------|----------|------------|------------|-----------|----------|----------|
|        |    | 平均<br>(m) | 標準<br>偏差 | 変動<br>係数 | 最高値<br>(m) | 最低値<br>(m) | 平均<br>(m) | 標準<br>偏差 | 変動<br>係数 | 最高値<br>(m) | 最低値<br>(m) | 平均<br>(m) | 標準<br>偏差 | 変動<br>係数 |
| 昭和55年度 | 男児 | 7.0       | 2.5      | 35.7     | 17.0       | 3.0        | 8.5       | 3.1      | 36.5     | 24.0       | 3.0        | 7.8       | 2.9      | 37.2     |
|        | 女児 | 4.4       | 1.4      | 31.8     | 11.0       | 1.0        | 5.1       | 1.6      | 31.4     | 13.0       | 2.0        | 4.8       | 1.6      | 33.3     |
| 昭和58年度 | 男児 | 7.0       | 2.7      | 38.6     | 16.0       | 1.0        | 8.3       | 3.1      | 37.3     | 23.0       | 1.0        | 7.7       | 3.0      | 39.0     |
|        | 女児 | 4.4       | 1.5      | 34.1     | 13.0       | 1.0        | 5.1       | 1.7      | 33.3     | 14.0       | 1.0        | 4.8       | 1.6      | 33.3     |
| 昭和61年度 | 男児 | 6.8       | 2.4      | 35.3     | 15.0       | 1.0        | 8.1       | 2.8      | 34.9     | 19.0       | 1.0        | 7.5       | 2.7      | 36.0     |
|        | 女児 | 4.5       | 1.5      | 33.9     | 13.0       | 1.0        | 5.2       | 1.6      | 31.2     | 13.0       | 1.0        | 4.9       | 1.6      | 32.7     |
| 平成元年度  | 男児 | 6.5       | 2.4      | 36.2     | 15.0       | 1.0        | 7.8       | 2.8      | 35.6     | 17.0       | 1.0        | 7.3       | 2.7      | 37.0     |
|        | 女児 | 4.2       | 1.5      | 35.0     | 11.0       | 1.0        | 4.8       | 1.6      | 33.0     | 13.0       | 1.0        | 4.6       | 1.6      | 34.8     |
| 平成4年度  | 男児 | 6.3       | 2.4      | 38.9     | 15.0       | 1.0        | 7.7       | 2.9      | 37.3     | 22.0       | 1.0        | 7.1       | 2.8      | 39.4     |
|        | 女児 | 4.1       | 1.4      | 34.2     | 10.0       | 1.0        | 4.9       | 1.7      | 34.3     | 12.0       | 1.0        | 4.6       | 1.6      | 34.8     |
| 平成7年度  | 男児 | 5.9       | 2.2      | 37.3     | 13.0       | 1.0        | 6.7       | 2.6      | 38.8     | 17.0       | 2.0        | 6.5       | 2.5      | 38.5     |
|        | 女児 | 4.2       | 1.3      | 31.0     | 12.0       | 1.0        | 4.6       | 1.5      | 32.6     | 12.0       | 1.0        | 4.5       | 1.5      | 33.3     |
| 平成10年度 | 男児 | 6.1       | 2.2      | 36.1     | 13.0       | 1.0        | 6.9       | 2.8      | 40.6     | 18.0       | 1.0        | 6.6       | 2.6      | 39.4     |
|        | 女児 | 4.0       | 1.4      | 35.0     | 12.0       | 1.0        | 4.5       | 1.6      | 35.6     | 11.0       | 1.0        | 4.3       | 1.6      | 37.2     |
| 平成13年度 | 男児 | 5.7       | 2.4      | 41.8     | 18.0       | 2.0        | 6.8       | 2.8      | 40.7     | 17.0       | 1.0        | 6.3       | 2.7      | 42.3     |
|        | 女児 | 4.0       | 1.4      | 33.7     | 9.0        | 1.0        | 4.7       | 1.5      | 33.0     | 11.0       | 1.0        | 4.4       | 1.5      | 34.2     |
| 平成16年度 | 男児 | 5.7       | 2.3      | 39.6     | 14.0       | 1.0        | 6.8       | 2.9      | 42.6     | 20.0       | 1.0        | 6.4       | 2.7      | 42.5     |
|        | 女児 | 4.0       | 1.5      | 36.7     | 10.0       | 0.0        | 4.5       | 1.4      | 31.8     | 9.0        | 1.0        | 4.3       | 1.5      | 34.2     |

(4) 体支持持続時間

| 年度     | 性別 | 年齢区分 A    |          |          |            |            | 年齢区分 B    |          |          |            |            | 全体        |          |          |
|--------|----|-----------|----------|----------|------------|------------|-----------|----------|----------|------------|------------|-----------|----------|----------|
|        |    | 平均<br>(秒) | 標準<br>偏差 | 変動<br>係数 | 最高値<br>(秒) | 最低値<br>(秒) | 平均<br>(秒) | 標準<br>偏差 | 変動<br>係数 | 最高値<br>(秒) | 最低値<br>(秒) | 平均<br>(秒) | 標準<br>偏差 | 変動<br>係数 |
| 昭和55年度 | 男児 | 72.2      | 48.6     | 67.3     | 466.0      | 7.0        | 86.5      | 62.6     | 72.4     | 431.0      | 7.0        | 80.9      | 58.0     | 71.7     |
|        | 女児 | 70.0      | 44.6     | 63.7     | 304.0      | 2.0        | 85.9      | 55.1     | 64.1     | 480.0      | 5.0        | 79.7      | 51.8     | 65.0     |
| 昭和58年度 | 男児 | 69.3      | 50.1     | 72.3     | 427.0      | 2.0        | 77.8      | 50.3     | 64.7     | 400.0      | 1.0        | 73.6      | 50.4     | 68.5     |
|        | 女児 | 66.8      | 45.5     | 68.1     | 439.0      | 2.0        | 78.0      | 52.5     | 67.3     | 654.0      | 2.0        | 72.6      | 49.6     | 68.3     |
| 昭和61年度 | 男児 | 61.7      | 40.6     | 65.8     | 289.0      | 3.0        | 68.9      | 43.2     | 62.7     | 374.0      | 5.0        | 65.9      | 42.6     | 64.6     |
|        | 女児 | 62.6      | 39.7     | 63.5     | 300.0      | 3.0        | 70.4      | 43.9     | 62.3     | 340.0      | 2.0        | 67.4      | 42.5     | 63.1     |
| 平成元年度  | 男児 | 54.1      | 36.5     | 67.5     | 328.0      | 4.0        | 62.6      | 45.0     | 71.8     | 497.0      | 3.0        | 59.4      | 41.7     | 70.2     |
|        | 女児 | 54.1      | 36.3     | 67.1     | 266.0      | 4.0        | 59.9      | 38.0     | 63.4     | 255.0      | 6.0        | 58.1      | 37.8     | 65.1     |
| 平成4年度  | 男児 | 50.0      | 34.6     | 69.1     | 214.0      | 0.0        | 63.4      | 47.6     | 75.1     | 578.0      | 3.0        | 57.4      | 41.9     | 73.0     |
|        | 女児 | 47.6      | 33.5     | 70.5     | 314.0      | 1.0        | 62.5      | 60.8     | 97.4     | 525.0      | 3.0        | 56.8      | 50.5     | 88.9     |
| 平成7年度  | 男児 | 50.8      | 31.0     | 61.0     | 175.0      | 2.0        | 57.3      | 37.9     | 66.4     | 301.0      | 3.0        | 56.1      | 36.3     | 64.7     |
|        | 女児 | 50.9      | 36.0     | 70.7     | 273.0      | 1.0        | 58.7      | 37.8     | 64.3     | 256.0      | 1.0        | 55.7      | 37.3     | 67.0     |
| 平成10年度 | 男児 | 41.7      | 26.5     | 63.5     | 170.0      | 1.0        | 51.4      | 34.1     | 66.3     | 218.0      | 3.0        | 48.7      | 34.3     | 70.4     |
|        | 女児 | 43.7      | 29.2     | 66.8     | 167.0      | 1.0        | 51.2      | 38.9     | 76.0     | 276.0      | 1.0        | 49.0      | 35.3     | 72.0     |
| 平成13年度 | 男児 | 47.2      | 42.5     | 90.1     | 513.0      | 1.0        | 55.0      | 39.5     | 71.7     | 329.0      | 1.0        | 51.8      | 40.9     | 79.0     |
|        | 女児 | 42.6      | 27.7     | 65.0     | 175.0      | 1.0        | 51.7      | 36.9     | 71.3     | 285.0      | 2.0        | 47.9      | 33.7     | 70.3     |
| 平成16年度 | 男児 | 45.0      | 34.2     | 76.1     | 441.0      | 1.0        | 51.1      | 34.8     | 68.0     | 237.0      | 0.0        | 48.6      | 34.7     | 71.3     |
|        | 女児 | 44.9      | 34.4     | 76.6     | 343.0      | 2.0        | 52.4      | 36.6     | 69.8     | 293.0      | 3.0        | 49.4      | 35.9     | 72.6     |

(5) 両足連続跳び越し

| 年度             | 性別 | 年齢区分 A    |          |          |            |            | 年齢区分 B    |          |          |            |            | 全体        |          |          |
|----------------|----|-----------|----------|----------|------------|------------|-----------|----------|----------|------------|------------|-----------|----------|----------|
|                |    | 平均<br>(秒) | 標準<br>偏差 | 変動<br>係数 | 最高値<br>(秒) | 最低値<br>(秒) | 平均<br>(秒) | 標準<br>偏差 | 変動<br>係数 | 最高値<br>(秒) | 最低値<br>(秒) | 平均<br>(秒) | 標準<br>偏差 | 変動<br>係数 |
| 昭和<br>55<br>年度 | 男児 | 5.6       | 1.3      | 23.2     | 3.8        | 12.0       | 5.3       | 1.1      | 20.8     | 3.6        | 11.0       | 5.5       | 1.2      | 21.8     |
|                | 女児 | 5.4       | 1.1      | 20.4     | 3.6        | 12.5       | 5.2       | 0.9      | 17.3     | 3.7        | 13.1       | 5.3       | 1.0      | 18.9     |
| 昭和<br>58<br>年度 | 男児 | 5.5       | 1.4      | 25.5     | 2.5        | 16.6       | 5.2       | 1.0      | 19.2     | 3.4        | 12.6       | 5.4       | 1.2      | 22.2     |
|                | 女児 | 5.4       | 1.3      | 24.1     | 3.3        | 30.0       | 5.1       | 0.7      | 13.7     | 3.6        | 10.4       | 5.2       | 1.1      | 21.5     |
| 昭和<br>61<br>年度 | 男児 | 5.6       | 1.5      | 26.9     | 3.4        | 20.9       | 5.3       | 1.3      | 24.9     | 2.7        | 16.6       | 5.4       | 1.4      | 25.9     |
|                | 女児 | 5.6       | 1.5      | 26.3     | 3.5        | 17.2       | 5.3       | 1.2      | 22.7     | 3.2        | 16.2       | 5.4       | 1.3      | 24.1     |
| 平成<br>元<br>年度  | 男児 | 5.6       | 1.3      | 23.8     | 3.5        | 13.7       | 5.2       | 1.1      | 20.1     | 3.2        | 13.6       | 5.4       | 1.2      | 22.2     |
|                | 女児 | 5.5       | 1.1      | 20.2     | 3.5        | 14.5       | 5.3       | 0.9      | 17.7     | 3.3        | 13.9       | 5.4       | 1.0      | 18.5     |
| 平成<br>4<br>年度  | 男児 | 5.8       | 1.7      | 29.0     | 3.9        | 18.0       | 5.4       | 1.4      | 26.1     | 3.4        | 20.0       | 5.6       | 1.5      | 26.8     |
|                | 女児 | 5.7       | 1.4      | 24.4     | 3.8        | 14.1       | 5.4       | 1.2      | 22.7     | 3.4        | 15.0       | 5.5       | 1.3      | 23.6     |
| 平成<br>7<br>年度  | 男児 | 5.5       | 1.5      | 27.3     | 3.3        | 19.8       | 5.2       | 1.3      | 25.0     | 3.4        | 19.8       | 5.4       | 1.4      | 25.9     |
|                | 女児 | 5.5       | 1.2      | 21.8     | 3.5        | 15.0       | 5.3       | 1.0      | 18.9     | 3.4        | 13.2       | 5.4       | 1.1      | 20.4     |
| 平成<br>10<br>年度 | 男児 | 5.7       | 1.7      | 29.8     | 3.5        | 15.7       | 5.3       | 1.3      | 24.5     | 3.3        | 14.8       | 5.4       | 1.5      | 27.8     |
|                | 女児 | 5.7       | 1.6      | 28.1     | 3.7        | 18.5       | 5.5       | 1.3      | 23.6     | 3.0        | 16.0       | 5.5       | 1.4      | 25.5     |
| 平成<br>13<br>年度 | 男児 | 5.7       | 1.9      | 33.8     | 3.5        | 29.0       | 5.2       | 1.1      | 21.8     | 3.1        | 14.4       | 5.4       | 1.5      | 28.3     |
|                | 女児 | 5.7       | 1.6      | 28.8     | 3.7        | 23.7       | 5.5       | 1.7      | 30.4     | 3.2        | 30.9       | 5.6       | 1.7      | 29.6     |
| 平成<br>16<br>年度 | 男児 | 5.7       | 1.9      | 32.4     | 3.4        | 22.0       | 5.6       | 2.9      | 52.0     | 57.0       | 3.2        | 5.7       | 2.5      | 44.6     |
|                | 女児 | 5.7       | 1.3      | 23.1     | 3.8        | 14.1       | 5.4       | 1.0      | 18.6     | 12.4       | 3.4        | 5.5       | 1.1      | 20.8     |

身長

| 年度             | 性別 | 年齢区分 A (5歳6ヶ月~5歳11ヶ月) |          |          |             |             | 年齢区分 B (6歳0ヶ月~6歳5ヶ月) |          |          |             |             | 全体         |          |          |
|----------------|----|-----------------------|----------|----------|-------------|-------------|----------------------|----------|----------|-------------|-------------|------------|----------|----------|
|                |    | 平均<br>(cm)            | 標準<br>偏差 | 変動<br>係数 | 最高値<br>(cm) | 最低値<br>(cm) | 平均<br>(cm)           | 標準<br>偏差 | 変動<br>係数 | 最高値<br>(cm) | 最低値<br>(cm) | 平均<br>(cm) | 標準<br>偏差 | 変動<br>係数 |
| 平成<br>16<br>年度 | 男児 | 111.8                 | 4.5      | 4.0      | 126.0       | 99.1        | 115.3                | 4.7      | 4.1      | 130.8       | 97.7        | 113.9      | 4.9      | 4.3      |
|                | 女児 | 110.9                 | 4.5      | 4.1      | 124.0       | 96.9        | 114.0                | 4.8      | 4.2      | 131.4       | 97.7        | 112.7      | 4.9      | 4.4      |

体重

| 年度             | 性別 | 年齢区分 A (5歳6ヶ月~5歳11ヶ月) |          |          |             |             | 年齢区分 B (6歳0ヶ月~6歳5ヶ月) |          |          |             |             | 全体         |          |          |
|----------------|----|-----------------------|----------|----------|-------------|-------------|----------------------|----------|----------|-------------|-------------|------------|----------|----------|
|                |    | 平均<br>(kg)            | 標準<br>偏差 | 変動<br>係数 | 最高値<br>(kg) | 最低値<br>(kg) | 平均<br>(kg)           | 標準<br>偏差 | 変動<br>係数 | 最高値<br>(kg) | 最低値<br>(kg) | 平均<br>(kg) | 標準<br>偏差 | 変動<br>係数 |
| 平成<br>16<br>年度 | 男児 | 19.3                  | 2.8      | 14.3     | 31.2        | 12.5        | 20.5                 | 3.0      | 14.5     | 31.5        | 13.2        | 20.0       | 3.0      | 14.8     |
|                | 女児 | 18.7                  | 2.7      | 14.3     | 30.2        | 1.9         | 19.9                 | 3.0      | 15.3     | 36.3        | 14.0        | 19.4       | 3.0      | 15.2     |

カウプ指数(注)

| 年度             | 性別 | 年齢区分 A (5歳6ヶ月~5歳11ヶ月) |          |          |      |     | 年齢区分 B (6歳0ヶ月~6歳5ヶ月) |          |          |      |      | 全体   |          |          |
|----------------|----|-----------------------|----------|----------|------|-----|----------------------|----------|----------|------|------|------|----------|----------|
|                |    | 平均                    | 標準<br>偏差 | 変動<br>係数 | 最高値  | 最低値 | 平均                   | 標準<br>偏差 | 変動<br>係数 | 最高値  | 最低値  | 平均   | 標準<br>偏差 | 変動<br>係数 |
| 平成<br>16<br>年度 | 男児 | 15.3                  | 1.5      | 9.6      | 23.3 | 9.8 | 15.4                 | 1.5      | 10.1     | 23.5 | 12.0 | 15.4 | 1.5      | 9.9      |
|                | 女児 | 15.2                  | 1.6      | 10.4     | 22.5 | 1.5 | 15.3                 | 1.7      | 11.1     | 24.2 | 12.3 | 15.2 | 1.7      | 10.9     |

(注) 発育の状況を示す指数の一つで、身長と体重のつりあいを数値で表したものの。

$$\text{カウプ指数} = \{ \text{体重}(\text{g}) / \text{身長}(\text{cm}) \times \text{身長}(\text{cm}) \} \times 10$$

発育状態を「普通」とするのは、満3、4、5歳では14.5~16.5

《平成 16 年度「東京都公立幼稚園 5 歳児の運動能力調査 - その 9 - 」実施園》

|              |              |               |
|--------------|--------------|---------------|
| 千代田区立麹町幼稚園   | 江東区立南陽幼稚園    | 北区立ほりふな幼稚園    |
| 千代田区立九段幼稚園   | 江東区立ひばり幼稚園   | 北区立さくらだ幼稚園    |
| 千代田区立番町幼稚園   | 江東区立もみじ幼稚園   | 北区立うめのき幼稚園    |
| 千代田区立富士見幼稚園  | 江東区立第五砂町幼稚園  | 荒川区立町屋幼稚園     |
| 千代田区立お茶の水幼稚園 | 江東区立東砂幼稚園    | 練馬区立北大泉幼稚園    |
| 千代田区立千代田幼稚園  | 品川区立城南幼稚園    | 練馬区立光が丘わかば幼稚園 |
| 千代田区立昌平幼稚園   | 品川区立第一日野幼稚園  | 練馬区立光が丘さくら幼稚園 |
| 千代田区立いずみこども園 | 品川区立八潮わかば幼稚園 | 足立区立鹿浜幼稚園     |
| 中央区立明石幼稚園    | 目黒区立ふどう幼稚園   | 葛飾区立西小菅幼稚園    |
| 中央区立月島第一幼稚園  | 大田区立松仙幼稚園    | 葛飾区立東柴又幼稚園    |
| 中央区立豊海幼稚園    | 大田区立萩中幼稚園    | 江戸川区立鹿本幼稚園    |
| 港区立芝幼稚園      | 大田区立西六郷幼稚園   | 江戸川区立船堀幼稚園    |
| 港区立芝浦幼稚園     | 大田区立蒲田幼稚園    | 江戸川区立小松川幼稚園   |
| 新宿区立市谷幼稚園    | 大田区立新宿幼稚園    | 三鷹市立ちどり幼稚園    |
| 新宿区立早稲田幼稚園   | 世田谷区立多聞幼稚園   | 府中市立矢崎幼稚園     |
| 新宿区立東戸山幼稚園   | 渋谷区立広尾幼稚園    | 日野市立第一幼稚園     |
| 新宿区立西戸山幼稚園   | 渋谷区立山谷幼稚園    | 清瀬市立けやき幼稚園    |
| 文京区立明化幼稚園    | 渋谷区立千駄谷幼稚園   | 東久留米市立上の原幼稚園  |
| 文京区立後楽幼稚園    | 中野区立みずのとう幼稚園 | 東久留米市立下里幼稚園   |
| 台東区立竹町幼稚園    | 杉並区立成田西幼稚園   | 東久留米市立大道幼稚園   |
| 台東区立田原幼稚園    | 豊島区立西巣鴨幼稚園   | 多摩市立多摩幼稚園     |
| 台東区立育英幼稚園    | 豊島区立南長崎幼稚園   |               |
| 墨田区立緑幼稚園     | 豊島区立池袋幼稚園    |               |